

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	校長名	庄司 達夫
------	---	-----	------------	-----	-------

1 目指す学校像 「学びを深める学校」

全教職員が聴覚障害の専門性をもち、連携協働して一人一人の子どもの言語力を伸ばし、子どもが学びを深めながら学力を身に付け、社会の一員として自立した社会生活を送るための資質を身に付けることができる学校。

(1) 教育目標

自己の障害への理解を促し、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、心身の調和的発達を図るとともに豊かな言語力を育て、社会の一員として主体的に生きる人を育てる。

<教育の柱>

○豊かな言語力 ○確かな学力 ○健やかな体 ○思いやりの心

(2) 目標具現化の柱

*各学校の現状に応じた「業務改善」に関する項目を掲げる。

①【安全安心】子どもが健康で安全安心な生活を送ることができる学校

ア学校安全、健康管理、危機管理の体制整備と様々な災害に備える防災教育
イ他者を尊重し、思いやりの気持ちを大切にすることができる子どもの育成
ウ健康な生活を教職員も実践

②【深める学び】子どもの学びの意欲に基づく学びを深める学校

エ ICT を活用した効果的な学びの実践
オ子どもの学びを支える教職員の専門性の向上（障害特性を踏まえた教科指導の充実）
カ子どもが主体的に学び合い、「授業が楽しい」「授業がわかる」といえる授業づくり
キ発達段階に応じた生活言語の獲得と定着（乳幼児・幼稚部）
ク発達段階に応じた日本語の向上及び手話力の向上（小学部・中学部）

③【連携協働】地域資源を生かし、連携協働した教育活動の充実

ケ地域から信頼される学校づくり
コ地域資源を活用した効果的な学習活動の実践
サ交流籍に基づく、双方に効果的な交流及び共同学習の推進
シ在籍校と連携した通級指導教室の運営

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）*「業務改善」についても記入する。

①【安全安心】子どもが健康で安全安心な生活を送ることができる学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学校安全、健康管理、危機管理の体制整備と様々な災害に備える防災教育	○発災時の対応、登下校指導など安全教育、防災教育の見直しを図る。 ○事故を減らすため職員間で情報共有し、安全な学習環境を整える。	○防災防犯対応力が向上した教員 AB100% ○学校は実態に合った防災教育を行っている と答えた保護者 AB90% ○約束を守って避難できた幼児児童生徒 AB90% ○体罰ゼロと答えた保護者、児童生徒 AB100 % ○情報共有したことで事故を未然に防ぐことができた教員 AB100 %	生徒指導課 体育保健課

様式第1号

イ	<p>他者を尊重し、思いやりの気持ちを大切にすることができる子どもの育成</p>	<p>○機を逃さず良い行動を称賛したり、他者を認め合ったりする。 ○感謝の気持ちを伝える会活動の実施。 ○自己チェック実施。 ○ゼロの日トーク実施。</p>	<p>○他者を尊重し、思いやりの心を育てることができた教員 AB90% ○友達の良さを認め、誰とでも仲良くすることができたと答える保護者、幼児児童生徒 AB90% ○人権意識が向上したと答える教員 AB90%</p>	<p>生徒指導課 各学部</p>
ウ	<p>健康な生活を教職員も実践（業務改善）</p>	<p>○アンケートやポスターによる啓発。 ○効率良く業務ができるように教職員からの意見を吸い上げ、随時改善していく。（会議の精選、内容が重複している書類の改善等） ○職員安全衛生委員会では、各学部の状況を報告し合い、職場環境を整えていく。</p>	<p>○時間外勤務が月 45 時間以内の教職員 AB90% ○時間外勤務が月 80 時間以上の教職員ゼロ ○設定された退庁時刻を教職員全員が守る ○ワークライフバランスが整った教員 AB80% ○相談しやすい職場と回答する教員 AB90% ○衛生面で職場環境が良いと答える教員 AB90%</p>	<p>教務課 職員安全衛生委員会</p>

②【深める学び】子どもの学びの意欲に基づく学びを深める学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
エ	<p>ICT を活用した効果的な学びの実践</p>	<p>○ICT に関する研修会の実施。外部からの助言を受ける。 ○定期的に ICT 教育に関する情報を発信する。 ○ICT を活用できる学習環境を整える。 ○各学部で ICT を活用した実践を共有したり、学びが深まったかを振り返ったりする。</p>	<p>○ICT 活用は学びを深めるために有効であると回答する教員 AB80% ○補聴援助システムや音声認識システムなどを活用できた教員 AB100 % ○学校は ICT 教育を取り入れていると思う保護者 AB80% ○ICT を活用したことにより授業がわかるようになった児童生徒 AB80%</p>	<p>教務課 自立活動課 各学部</p>
オ	<p>子どもの学びを支える教職員の専門性の向上 （障害特性を踏まえた教科指導の充実）</p>	<p>○言語指導面での理解を深め、実態に合った配慮のある授業づくりを推進する。 ○スキルちゃんの啓発とミニ講座の実施。</p>	<p>○個の実態に応じ、聴覚障害の特性に配慮した授業ができる教員 AB90 % ○スキルちゃんを意識して幼児児童生徒に関わることができた教員 AB90%</p>	<p>研修課 自立活動課 地域支援部</p>
カ	<p>子どもが主体的に学び合い、「授業が楽しい」「授業がわかる」といえる授業づくり</p>	<p>○学部研修課を中心に仮説を立て、常に研修テーマに立ち返りながら研修を進める。 ○教科横断的な視点で授業を捉えるように促す。</p>	<p>○幼児児童生徒が主体的に学びに向かう授業づくりができた教員 AB90% ○授業が楽しい、授業がわかると答える幼児児童生徒 AB100% ○学校の授業はわかりやすいと思う保護者 AB90% ○学部研修や一授業を通し</p>	<p>研修課 各学部</p>

様式第1号

			て授業改善できた教員 AB90%	
キ	発達段階に応じた生活言語の獲得と定着（乳幼児教室）（幼稚部）	○母子関係、仲間づくりを大切に早期支援、乳幼児教室の充実を図る。 ○生活言語の獲得と定着を図るための保護者支援の充実を図る。	○乳幼児の発達に関する保護者学習会を年間3回実施する。 ○保護者学習会を年間9回、おしゃべり会を年間11回実施する。 ○学習会に満足した保護者AB100%	地域支援部 幼稚部
ク	発達段階に応じた 日本語の向上 及び手話力の向上（小学部）（中学部）	○日本語の拡充を目指した読み聞かせを行う。 ○成人聴覚障害者との交流を実施する。 ○聴覚障害者を講師に段階別の手話学習会を実施する。	○読み聞かせや読書の時間を週1回以上実施する。 ○日記や感想文の指導を通して子どもたちの日本語力が向上したと答える教員AB80% ○自分の手話力が向上した教員AB80%	小学部 中学部 自立活動課

③【連携協働】地域資源を生かし、連携協働した教育活動の充実

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ケ	地域から信頼される学校づくり	○学校周辺地域に学校だよりを配布したり学校行事に招待したりする。 ○中部地区保健センター巡回を実施する。 ○教育目標に沿った予算編成と適正な予算執行を行う。	○学校は学校周辺地域とつながりがあると答えた保護者AB100% ○参加者の満足度AB100% ○監査における指示注意0件 ○学校経営予算の計画的な執行12月末執行率60%	各学部 地域支援部 事務部
コ	地域資源を活用した効果的な学習活動の実践	○地域資源を活用した校外学習や保護者学習会の実践。	○地域資源を活用できた教員AB90% ○各学部で地域とつながりをもつ。	各学部
サ	交流籍に基づく、双方に効果的な交流及び共同学習	○実態に応じて個々の目標を明確にした上で取り組む。 ○幼稚部では在籍園交流を実施する。	○交流籍による交流の良さを実感できたと答えた児童生徒、保護者、交流相手校AB90% ○交流校（大きな集団）で聞こえへの配慮を依頼できた児童生徒AB80%	各学部
シ	在籍校と連携した通級指導教室の運営	○通級指導教室説明会や在籍校訪問等を通して在籍校への支援を充実させる。	○在籍校訪問の実施率90% ○在籍校への支援を行い、理解、連携が深まったと答える地域支援部教員AB90%	地域支援部